Ⅳ－52

国際的イベント開催後における盛岡の都市のサインに関する基礎的研究

岩手大学工学部　○正会員　赤谷　隆一
岩手大学工学部　　正会員　安藤　　昭

１．はじめに

平成５年２月に「世界アルペン盛岡雫石大会」が岩手県初の国際的イベントとして盛岡市・雫石町において開催され、多くの外国人が訪れた。盛岡市はこのイベントを契機に国際化の時代に対応した環境整備を行っている。本研究は、国際的イベント開催後の盛岡市のサインについて、国際都市として訪問する外国人も多い東京、京都のサインとの比較を行ない、盛岡市内のサインの課題を探ることを目的とする。

２．調査および分析について

都市のサインを使用目的により分類すると表－１のように示される。

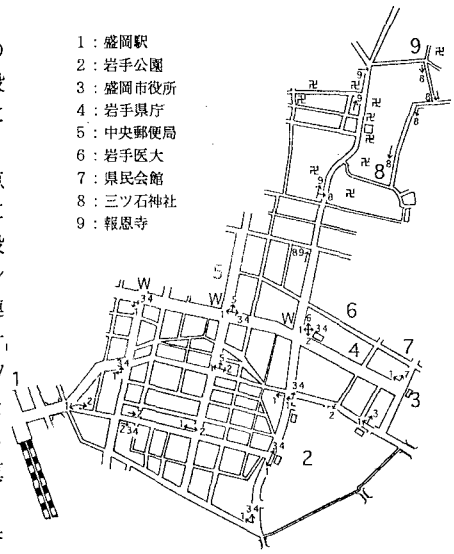
表-１　都市サインの使用目的による分類

市街地サイン	町をわかりやすく案内し、歴史や文化などへの理解を深めその町の魅力をアピールする。行動の拠点や主要な分岐点に設置する。
自動車サイン	道路標識設置基準に準じ自動車の円滑な誘導をはかる
公共施設サイン	原則として各施設等で計画するものであるが、都市景観に影響を与えるものは、一貫した整備が必要である。
その他のサイン	看板など

調査は、表－１に示される公共施設サインと歩行者用誘導サイン（市街地サインおよび自動車用サインで歩行者用に設置されている案内標識：著名地点及び主要地点を対象とした歩道上に設置された標識）を対象として、サインの写真撮影と地図上への位置の記入を行なったものである。調査地域は盛岡では、盛岡駅から岩手公園まで（約１km）の市街地中心部と北山寺院群（盛岡駅から約1.8km～2.5km）を、東京では浜松町駅から東京タワーまで（約１km）とその周辺部を、京都では嵯峨駅から嵯峨野寺院群（約0.5km～2.2km）までを選定した。なお、バス停の表示方法についても比較した。調査期間は平成６年１１月２５日から１２月７日である。

３．分析結果および考察

図－１に盛岡の対象地域内におけるサインの位置を、主要施設への誘導サイン（市街地サインと案内標識）は→ｎで（ｎは地図内の施設番号と一致）、公共施設サインを□で示している。また、写真－１に案内標識の例を、写真－２に市街地サインの例を示す。



図－１　都市サインの位置図（盛岡）

図－１に示されるように、盛岡駅から岩手公園までの主要な交差点の歩道上に誘導サイン（案内標識）が設置されていることから容易に目的地に到達でき、加えて岩手公園の入り口にも公共施設サインが設置されている。市街地においても主要な交差点の歩道上に誘導サイン（案内標識：写真－１）が設置されており、それぞれが分離せずに連動して結びついて各施設まで誘導している。しかし、施設の入り口付近に公共施設サインが設置されていない場合もある。また、地図上Ｗの交差点は、広街路幅員の交差点にも関わらずサイン設置は１カ所となっており見つけにくい。表示は日本語・英語の併記となっているが、目的地までの距離や時間に関する情報は表示されていない（写真－１参照）。北山寺院群内の誘導サイン（市街地サイン：写真－２）は五百羅漢（報恩寺：施設番号９）と鬼の手形（三ツ石神社：施設番号８）に関する表示となっているが、報恩寺の正面には公共施設サインとして五百羅漢の表示がないことから問題がある。また、報恩寺から三ツ石神社までは誘導サイン（市街地サイン）はあるが、三ツ石神社から報恩寺に向かう場合には誘導サインが設置されていない。

次に浜松町駅から東京タワーにかけてのものを図－２に示し、サインの例として写真－３・４を示す。

東京タワーを目的地とした場合、浜松町駅よりも都営地下鉄三田線の御成門駅と芝公園駅が最も近い事から、東京タワーへの誘導サインは両駅の出口から設置されている。両駅から東京タワーまでの間のすべての交差点において方向・距離・英語併記による誘導サイン（案内標識）が設置されてい

写真－１　誘導サインの例（案内標識）

写真－２　誘導サインの例（市街地サイン）

ることから来街者は安心して到達できる。写真－３・４に示されるサインのシンボルマーク等が盛岡と同じである。これは東京都建設局が昭和５９年に検討したものである（道路標識設置基準・同解説：114系）。

京都嵯峨野寺院群内のサインの位置とその例を図－３、写真－５・６に示す。ここでは観光用に「嵯峨野めぐり」というコースを設定しサインを設置しており、図に示されるようにほとんどの交差点に誘導サイン（市街地サイン）が設置されている。この地域は歴史的風土特別保存地区であることから、景観にも配慮されたサインとなっておりデザインや色も統一的に整備されている（写真－５・６参照）。

最後にバス停の表示を写真－７～９に示す。東京では現在地及び起点から終点までの路線の停留所名と他の交通機関との接続地点に関する情報を、京都では現在地及びそれ以降の路線の停留所名と料金を表示している。盛岡のバス停では現在地と終点のみの表示となっている事から来街者にとってバスの利用が困難となっている。

これら東京・京都との比較を通し明らかとなった盛岡のサインに関する課題は以下のように示される。

1、市街地中心部の誘導サインとして案内標識の114系のサインが利用され、日本語、英語の併記はされているが目的地までの距離が表示されていない。広幅員の交差点においてサインの設置が１カ所だけで見つけにくい。

2、北山寺院群では市街地サインを設置しているが１方向からの誘導だけにならないようにし、市街地サインや公共施設サインのデザインや材質を考慮し、周辺景観に配慮すべきである。

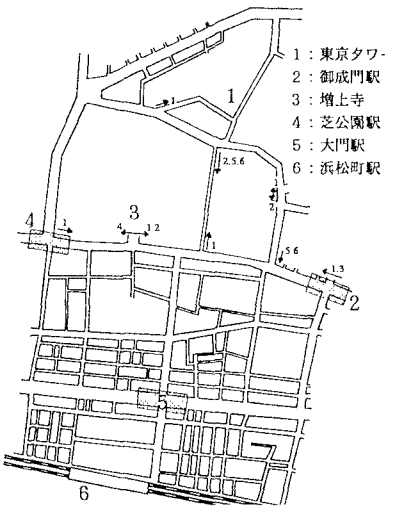
3、バス停の時刻表の中に、路線図や周辺の公共施設などの情報が表示されていない。

4．おわりに

これからの町づくりの中で都市の個性や美しさを考えていく場合に、都市における市街地サインは来街者にとって、その都市のイメージをも左右する重要な要素である。景観保全地区ではデザインや形態に配慮しているが、市街地においては、どの都市においても誘導サインを道路標識設置基準により設置していることから同様なデザインとなっている。今後、その都市独自のデザインによる市街地サインが求められよう。

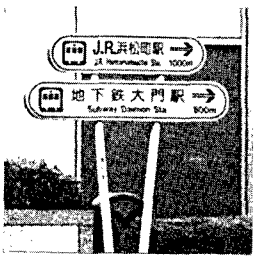
なお、本研究は平成６年度文部省科学研究費補助金（奨励研究Ｂ）により行ったものである。

参考文献：（社）日本道路協会，道路標識設置基準・同解説，昭和６２年



図－２　都市サインの位置図（東京）

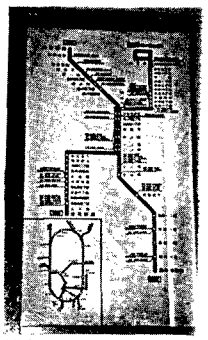
写真－３　誘導サインの例（案内標識）



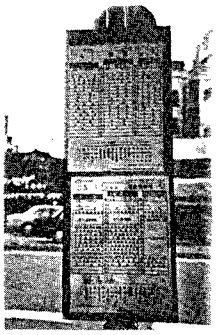
写真－４　誘導サインの例（案内標識）

図－３　都市サインの位置図（京都）

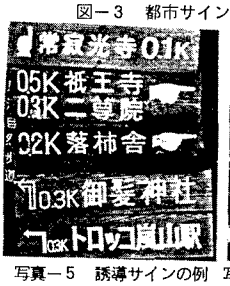
写真－７　バス停の表示例（盛岡）



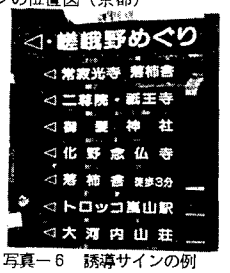
写真－８　バス停の表示例（東京）



写真－９　バス停の表示例（京都）



写真－５　誘導サインの例（市街地サイン）



写真－６　誘導サインの例（市街地サイン）